

ハイライトよねやま

(財)ロータリー米山記念奨学会
2001年1月16日発行

日本の留学生数6万人突破：文部科学省発表

文部科学省は、昨年12月6日に「留学生受入れの概況」(2000年5月1日現在)を発表した。留学生数は64,011人と過去最高の数値を示し、対前年度比8,256人(14.8%)の増加となった。在籍課程別では、学部課程の対前年度3,802人(15.8%)増に比べ、大学院修士・博士課程の増加が対前年度比901人(4.0%)とその増加率の低さが目立っている。

留学生受入れの概況・在籍課程別 (2000年5月1日現在)

	国立	公立	私立	合計
学部	6,253人 (5,686)	1,066人 (870)	20,476人 (17,437)	27,795人 (23,993)
大学院	17,000人 (16,482)	939人 (904)	5,641人 (5,293)	23,580人 (22,679)
その他 短大・高 専・専修・ 準備教育	646人 (595)	85人 (60)	11,905人 (8,428)	12,636人 (9,083)
合計	23,899人 (22,763)	2,090人 (1,834)	38,022人 (31,158)	64,011人 (55,755)

()内は1999年5月1日現在の数

ちなみに、2000年度米山(YU・YM・YD)奨学生は1,097名であるが、その課程別内訳は、学部13.5%、修士34.2%、博士49.4%と、大学院レベルの割合が高い。米山奨学生採用が、今後も高学歴者採用傾向に向かうことは「優秀な学生の採用」を目的とすることからも予想できる。今後は対象となる大学院レベルの学生の増加が望まれる。

なお、国(地域)別では、前年度の順位(中国32,297人、韓国12,851人、台湾4,189人、マレーシア1,856人、インドネシア1,348人)に変化は無かったが、中国籍出身者が32,297名と対前年度比6,390人(24.7%増)と大幅に増加し、全体の50.5%を占めるに至った。

米山奨学生選考・採用は各地区の選考委員会に一任され、1カ国が過半数を超えないように留意されているが、地区によっては申込段階において既に中国籍が80%を占める場合もある。米山奨学の優秀性を謳う一方、合格者の国籍割合が採用段階でどの程度留意されるかが今後の課題となろう。

(栗原)

<「留学生受入れの概況」資料をご希望の方は、米山奨学会までご連絡ください。 : 03-3434-8681 >

渡日前入学許可と奨学金予約の現状と課題

シンポジウム「渡日前入学許可と奨学金予約 事例紹介と課題検討」が、2000年12月22日(金)にJAFSA*/JISSA*合同会議において開催された。渡日前入学許可の事例として、慶応義塾大学および国際大学から発表があり、日立国際奨学財団および吉田育英会から渡日前奨学金予約制度の報告があり、問題と課題について意見交換が行われた。

渡日前入学許可は、日本で選考試験を受けずに外国で日本の大学の書類選考および試験を受け、渡日前に入学許可を得られるという制度である。文部科学省では、渡日前入学許可の普及に向けて、現行の「日本語能力試験」および「私費外国人留学生統一試験」を廃止し、2002年から日本留学のための新しい日本語統一試験として「日本留学試験」を実施することとした。また、大学側でも提出書類のスリム化を図るなど、制度普及のための方策を検討している。

現在、これらの政策に奨学金を結びつけ、より優秀な留学生を現地で選考し採用するシステム(奨学金予約制度)に目を向ける奨学団体が増えている。文部科学省報告(1999年5月現在)では、全国188の奨学団体のうち19団体が既にこのシステムを導入している。

米山奨学事業においても、渡日前奨学金予約制度の第一歩として2000年4月からSY-A奨学金が試行されている。これは、申込者の選考を韓国・台湾学友会・選考委員会に委ね、推薦された候補者を米山(SY-A)奨学生として受入れる制度である。現行は、応募対象を研究者レベル(博士号取得者)としているが、今後は大学院進学者に広げること考えられる。

文部科学省が2年前に提唱した「ポスト2000年の留学生政策-知的国際貢献の発展と新たな留学生政策の展開を目指して」においても、すでに渡日前入学許可の普及が謳われている。民間奨学事業最大の規模と実績を持つ米山奨学事業も、より優秀な人材を求める方策として、海外での選考に目を向ける時期が来ているようである。(栗原・西辻)

*JAFSA:国際教育交流協議会(大学・留学生奨学団体で組織される協議会)

*JISSA:留学生奨学団体連絡協議会(日本の留学生奨学団体が組織する協議会)

学友のニュースを集める“地区米山レポーター”配置

2000年12月から、全国に“地区米山レポーター”を配置しました。米山奨学生・学友の活躍は、ロータリアンの奉仕活動の原動力にもなります。しかし現状では、その広報が十分に行われているとは言えず、米山学友のニュースを集めるためのネットワークづくりが急務となっております。その第一歩として、全国にある18の学友会の会長に“地区米山レポーター”になっていただき、ニュースの収集と連絡にご協力いただくことになりました。レポーターから寄せられたニュースは、「ロータリーの友・よねやまだより」「ハイライトよねやま」などでご報告する予定です。どうぞお楽しみに。

以上